

◇ 松 田 謙 吾 君

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員、登壇を願います。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） 12番、松田謙吾です。私歯を治療していて、聞きづらいと思うけれども、できるだけゆっくりお話ししたいと思います。

それでは、会派きずなの松田謙吾です。一般質問2点行います。1点目の白老町立国民健康保険病院のあるべき姿について。（1）、町立病院のあるべき姿と町民説明について。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 白老町立国民健康保険病院のあるべき姿と町民説明についてのご質問であります。町立病院は、患者さんに信頼され、笑顔と思いやりのある病院づくりを基本理念に掲げ、地域における基幹的な公的医療機関として地域住民の医療確保のための役割と機能を果たしてまいりました。地域医療につきましては、公と民の適切な役割分担により提供されるべきものであり、公立病院のあるべき姿は地域にとって必要と考える医療について政策的に提供すべきものであります。このような考えのもと昨年11月に町立病院の方向性の政策判断においてお示したように、苫小牧市や室蘭・登別市の中間に位置する本町において東胆振、西胆振医療圏を含めた地域完結型の医療提供を目指すべく町立病院としての役割を果たすべきと考えるものであります。この政策判断に基づく具体的な展開については、今後病院改築基本方針においてお示しすることになりますが、先般議会の調査特別委員会から出されましたご意見を真摯に受けとめ、その内容を十分精査し、皆様のご理解が得られる基本方針づくりを着実に進めていく過程において町民の皆様のご意見を賜りたいと考えております。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） 12番です。ただいま町長の答弁いただきましたが、私が質問したのは町立病院のあるべき姿です。今町長のご答弁は簡単に言うと地域にとって政策的に提供すべきもの、そして完結型の医療提供目指す、このことだと前段のほうでは思います。そして、町立病院としてのそのことで役割を果たしていく、こういうことですが、私はあるべき姿と言ったのですが、町長のあるべき姿はこの地域、それから政策的にと、こういう言葉を使って、そして完結型という言葉使っているのですが、町長の政策判断でこれ述べている、新しい病院の政策判断の一環だと私は思うのですが、もう一度この地域、それから政策的、それから地域完結型という、これをもう少しひもといて、町民もわかりやすくもう一度ご説明願いたいのですが、考え方をお聞きしたいと思うのですが。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） どこまで詳しくかというのは、また質問していただければというふ

うに思います。1 答目で答弁したとおり、地域完結型ということで今の町立病院より外来機能を多くして、より、今苫小牧市、東胆振圏、西胆振圏に行っている患者さんがこちらでもきちんと受けられるような形で外来機能を多くして、個別になります、入院機能についてはきちんと地域で補完していくという考えで政策判断をして、お示したところでございます。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） 先ほど言ったとおり、私は何もわからない。これ町民の方々もこれわからないと思う。私は、地域という言葉はいろいろあって、町長の使っている地域はわかります。政策判断で述べておりますから。では、町民の方々から聞くと、地域というのは白老のまちは駅が6つあって、社台駅から虎杖浜までありますよね。字別が3つになっている。字ついている。そして、それが地域と、こう呼んでいるのですが。ですから、私が今聞いているのはそういうことでなく、町長の言う地域というのは苫小牧市、室蘭市、登別市、ここと連携していくこの大きな地域なのかどうかということを、私はわかっているのですけども、そういうことを述べてほしかったのです。

それはそれとして、私は町長のこの答弁書を見ていて、一向に我々が町長の政策判断をもう一回考え直したらどうですかと、何度もこう言っている。でも、町長はきのうも大淵議員があれだけ北海道の町立病院、公立病院の経営収支のお話を詳しくお話しされました。北海道179町村の131のまちがあって、13の村があるのです。その中の57の病院で医業収支、言うなれば繰出金のお話が詳しくありました。きのう大淵議員の質問の中でいくと、私もすごくいい質問だと思っていました。この医業収支が北海道、今言った144、13の村があって、131のまちの中で57公立病院、まちでやっている病院の57のうち54番目というお話がありました。後ろからです。ですから、この医業収支についてはすばらしいまちだ、きのうの大淵議員言われたとおりのまちなのだなど。改めてきのう、白老町立国民健康保険病院の役割というのは、果たした役割とともに私はすばらしい病院だと、こう思っております。それから、少し町長のお考えが変わったかなと思ったら、今のこの答弁で全然変わっていないから、今こんな質問しているのです。

そこで、私は町長の政策判断、政治判断の、民営化にかじを切ったわけです。かじを切つて、町長はずっと言ってきたのだけれども、前進しかないという言い方していたのですが、私はまだ変わらないなと思っております。そこで、このごろ、私は苫小牧保健センターはどうでもいいのです。私は来てほしくないから。来るの反対なのです。それで、この苫小牧保健センター、医師会長と現在交渉中と思うのですが、本当は聞きたくないのだけれども、このところ聞いておきたいのですが、進捗状況、何点か聞くけれども、今どうなっていますか。

○議長（山本浩平君） 伊藤病院改築準備担当参事。

○病院改築準備担当参事（伊藤信幸君） 苫小牧保健センターとの協議の進捗状況でござい

ます。私のほう事務的な協議というところの立場でのお話をさせていただきたいと思いません。

まず、この11月の政策判断以降につきましても議会の対応ですとか町内の状況につきまして情報共有を図りながら意見交換をさせていただいております。当然今回1月30日に出されました議会からの意見書が出されたことにつきましても苦小牧保健センターさんのほうにも情報を入れさせていただいております。現状今の事務協議の中ではこういう情報交換をさせていただいているような状況でございます。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） 最近会ったのはいつですか。伊藤参事でなく町長が一番会ったのはいつですか。一番最後に会ったの。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） ちょっと日にちまではっきり覚えているわけではないのですが、二、三週間ぐらい前だったと思います。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） そのときに白老の議会で民営化でなく、何とか町立病院存続できないか、まだ4年もあるからと、こう言っているのですが、そのことは私は耳に入っていると思うのです。その中でこの沖理事長の姿勢は全く最初と変わりませんか。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 医療提供という立場では全く変わっていないということと、議会の特別委員会も合わせてこういうやりとりしていることも承知されておりますので、そのことについてはやっぱりまちのほうがちんとまずは土台をちゃんとつくったほうがいいという考えではあると思います。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） 29年3月の一般質問で私はいずれこの話は壊れるだろうと、町長は沖先生からアドバイスをもらってかじを切ったのですが、議会のいろいろなさまざまな議事録や、それから町民の動向など見て、こんなまちなら私はやめるわということにならないかなと思って、私はそこを期待しているのだけれども、一向に沖先生の姿勢は変わらないのですか。

○議長（山本浩平君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） 私も何度も沖先生と会って、直接的にはお話ししてはいないのですけれども、苦小牧保健センターの事務方を通して今までかかわってきた中でのお話というふうなことで押さえてほしいのですけれども、苦小牧保健センターのほうにこのお

話を、本町の町立病院のこれからのあるべき姿を含めてどうするべきかというふうなことで昨年の2月に覚書を取り交わして、いろいろとお話をさせていただいております。そうい  
う中で出された結果が11月の一つの方向性というふうなことになっております。そのと  
ころからまだまだずっと中身のことについていろんな観点から話はしてきております。そ  
ういうところは、向こうの事務方はきっと沖先生もそのところを押さえながら、指示をもら  
いながら私たちと話し合い、協議を進めているだろうというふうに私は思って、向こうの事  
務方とは話をしております。その後、先日の議会の特別委員会から出された意見があります  
よね。それは、その前に特別委員会の様子も含めて苫小牧保健センターのほうにはるるお伝  
えをしております。ですから、その後の議会から出されたご意見につきまして、私たちも今  
精査をして、どういうふうに今後方針を立てて、ご提示するべきかというふうなことをして  
おりますけれども、その面についてきっとこれから沖先生のお考えも含めて事務局とは話  
を進めていくことになるだろうというふうに考えております。まだ実際的には議会のご意  
見をいただいてからは実質的なお話し合いは事務局とはしておりません。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） 議会の特別委員会を含めて、こういう一般質問を含めて、私は沖先  
生も頭をかいているのではないかなと思っているのです。このまま町長の考えは一步も下が  
らないような、この議会の一般質問、代表質問のさまざまな経過を見て、私は町長の考え変  
わるのかなと思ったけれども、全く変わっていない。そして、町民の皆様の意見を賜りたい  
と、こう町長言っていますよね。町民の皆さんの意見をどのような場で賜りたいと思ってい  
るのか、それからその賜ったご意見をどうやって生かしていくか。例えば苫小牧保健センタ  
ーは来ないでくださいという意見が多かったら、その意見のほうに町長は乗るのか、ただ聞  
くだけなのか、その辺の考え方をお聞きしておきたいと思います。

○議長（山本浩平君） 伊藤病院改築準備担当参事。

○病院改築準備担当参事（伊藤信幸君） 意見の聞き方でございます。まず、事務方としま  
しては、今回の議会の意見を踏まえまして、町民に丁寧な説明をしていかなければやっぱり  
理解が得られていかないというところでございますので、まず今までもご答弁差し上げて  
いるとおりの構想の改定版、そして基本計画の素案の中でいろいろ対策も含めた具体的など  
ころもしっかり押さえた上でしっかりご説明をしていかなければ、やはり町民の理解は得  
られていかないのかなというように思っております。そういう部分で基本方針の策定の  
過程の中でそういった説明会だとかをしていくべきではないかというふうに考えてござい  
ます。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） 町長がせっかく皆様の意見を賜りたいと、こう言っていますが、議

会の意見も皆さん、町民の意見ですよ。私も町民ですし、それから議会の意見でもある。議会の意見も何も、それぞれの考え方を申し上げております。議会の意見は特別委員会の中で中間報告で求めていますから、この町民の中のイの一番に意見を聞かなければならぬのは私は病院を守る友の会の意見だと思っているのです。守る友の会のこの熱心な意見を私は25年の宮脇北大准教授の、町長が要請して財政状況含めて病院問題を提言してもらったのですが、そのときに病院原則廃止から始まったのです。それから、守る友の会の皆さんは4年9カ月間汗水をかいて、血の出るような努力をして、そして4,612名の署名を集めてというよりいただいて、そのたびに町長、それから院長、議長、議会、このみんなに自分たちの血の汗かいた提言書と町民のご意見をまとめながら届けております。守る友の会の皆さんのこの行動、その皆さんはどんな考え持っているか改めて言うまでもありません。しかも、毎月守る友の会はこのようにずっと届けておりますから、言うまでもない。守る友の会の皆さんのこの動向、それから思い、それから町立病院の町長の判断に対する考えをどのように受けとめているのかお聞きしておきたいと思っております。

○議長（山本浩平君） 古侯副町長。

○副町長（古侯博之君） 町長の前に私のほうから今の件につきまして。

守る友の会の皆様方からはご署名をいただくたびごとにその趣意書も含めてどういう思いで、どういうお考えでいるのか、それは十分私たちも捉えているつもりです。署名含めて、その重みは十分町長も含めて、私も担当の一人として非常に強く感じております。そういう中で、一つの方向性としては11月に政策判断として出させていただきましたけれども、守る友の会のご意見も含めながら、また私たちが今、議会からのご意見もいただきながら、やっぱり再度本当に町民の皆様方にしっかりとこの病院づくりのあり方、あるべき姿、それをお示しする中でご意見を聞いていかなければ先にはきっと進まないのではないだろうか。いろんな考え方があるだろうと思っています。この保健センターと協議を開始して1年たちました。1年たつ中で11月に政策判断を出して、そしてその過程を通じながら本当にこのまちの中における町民の思いはさまざまな形であるということは、私も町長も含めてしっかりとその辺のところは把握をしながら、今後の病院のあるべき姿づくりをしていかなければならないと重々重く考えております。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） 本当に重々重く考えなければならぬと、私もそう思っております。

私この町立病院を守る友の会の、町立病院便り7号に。町立病院のあり方の一考と書いているのです。集会で2つのエピソードが心に残った。1つは時間外の窓口で専門医がいないから、あす来てくれ、帰されたという話。病人はずがる思いで病院へ行く。そのとき医師が対応して、話をしてくれるだけで患者は安心して帰ることができる。そして、2つは町外の病院に入院していた病人が町立病院に移って、終末を迎える傾向があるという話。利便的理

由もあろうが、昔から人はふるさとで死にたいと願っている。以上から、町立病院は初診と終えんという病人にとって重要な役割を担っていると痛感した。事後の処理は、現在ネットワークで専門医の指示が得られる仕組みは整っている。ふと思った。かつて白老の人々に信頼され、いまだに記録されている高橋房次医院のことを愛され、信頼された理由がこの2つの要件が満たされているからだということ、町立病院が現代の高橋医院として地域医療に欠かせないことを為政者は知っている。こういうことも自分自身も、守る会のことというのは本当にこういうことも含めて町立病院にこの4年9カ月間、支えるのに大きな貢献をされている。では、今町立病院はどうなのか。私は再三言っている。まだ4年あるね。基本構想から基本設計が当初からいくと30年、基本計画が31年、32年から建設、34年まで。これだけ長い間、こういう守る会、こういう方々がいないと私は町立病院もたないと思います。今までも支えてきた。しかし、病院スタッフだって飯を食うためにあすの行き場がある、あしたどこに行くか。恐らく私はこのままだといつやめるかなという方々がたくさんいると思います。これ前にも言っていますよね、私は。私は予告していました、こうなるよと。ですから、私はこの守る会にどれだけ今させ……ところが守る会も私は必ず手を離すと前に言っています。恐らくそのとおりになると思います。そういうことからいくと、私は町長に改めて白老のまちを思うならもう一度立ちどまったらどうだと何回も言っているのはこのことなのです。私は、改めてこういう機会ですから、町長の思いは変わっていないのか、ここでもう一度、この守る会の皆さんに聞かすためにもきちっとした答えで答えてください。やめるのか進めるのか、この判断をちゃんとしないとあそこで働いている医療スタッフの方々の、まさにこの方々のためにも私は早い判断が必要だと。この判断が大切です。ただし、今のまま進むとあの病院はもたないとはっきり言っておきます。どうですか。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 確かに判断は早いほうがいいというお話は理解しております。本来であれば、今年度中にやっぱり基本構想、基本計画に進むという計画ではありましたが、いろんなご意見、お声がありましたので、町立病院の調査特別委員会の中でもいろんな課題を出されて、今慎重に進んでいるということでもありますので、今すぐこうするという事は差し控えさせていただきたいと思います。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

[12番 松田謙吾君登壇]

○12番（松田謙吾君） 12番。では、私の見る病院のあり方を申し上げたいと思います。

私の病院像、病院のあるべき姿とは、患者さんに信頼され、笑顔と思いやりのある病院づくりの基本理念が医療スタッフ、町民、患者が共有されることでもあります。加えれば、医療収支が100%になることが病院経営の本当のあるべき姿だと、私はこう思っております。一般病床は、町内に唯一町立病院だけです。町民の高齢化、入院患者、その家族の利便性、退院後の通院治療の交通費等の経済負担、そして救急医療体制は地域住民が安全に安心して

生活する、町民を守る手段だと私は思っております。私のこの見解をどう思いますか、町長。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 1答目で私も町立病院の基本理念もお答えしたとおり、今松田議員おっしゃるとおりだと思います。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

[12番 松田謙吾君登壇]

○12番（松田謙吾君） それでは、民営化の政策判断が表沙汰になってはや1年が経過しました。こんなこといつまでもぐずぐずしては、先ほども言っているのですが、例えば病院基本構想改定版が出て、できても新病院まで4年ある。その間納得する政治判断になるのか、町長おっしゃる町民に一番いい方法となるのか、甚だ大きな疑問を私は持っております。そこで、病院の今の現状、どのように捉えておりますか。

○議長（山本浩平君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） 今松田議員のほうからありましたように、そして町長がお答えになったように、本当に本町にとりましての地域医療の一つのあり方としてはしっかりとしたりやっぱり信頼関係がそこにある医療行為がなされていかなければならないということは重々私自身も担当として重く捉えております。今の病院の状況は、先日も院長との話、それから病院の管理職スタッフとの話においても確かに退職者が出てきていることがあります。そのことに対して事務局のみならず、私たちも役場も一体になりまして、スタッフの確保についてはまずは進めていかなければならないということで、さまざまな方面から声をかけまして、進めているところでございます。病院のスタッフの皆さんがどういうふうにもみずからの将来を考えて、自分の進退を決めていくかということは、私どもがこれはだめだとかこれがいいだとか、そういうふうなことは言えませんので、なかなか厳しい状況にあるということは押さえております。だから、その対応は十分図っていかなければならないというふうに思っていますし、今議員がおっしゃるようにまだまだ34年というふうな開設の期間までは非常に長い時間が必要となっていますから、その間に今の政策の捉え方でいけばどういうことを、方法をもってこの町立病院としての機能を果たしていくべきなのか、それはしっかりと考えていかなければならないと思っております。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

[12番 松田謙吾君登壇]

○12番（松田謙吾君） 何ととっても大事なことは、病院と管理者、管理者は町長ですから。これが一体になっていなかったらだめなのだ。ですから、今病院と管理者と一体になっていると、こう捉えていいのですか。

○議長（山本浩平君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） 捉え方の部分で、それはどうするべきなのかというところはありませんけれども、確かにスタッフ一人一人の声をじかに、再三申し上げているように、私ども

理事者がとっているわけではございません。ただ、あるデータといいますか、病院のスタッフの声を集めたものについては、私たちが全体の声の集約部分は押さえております。そこに病院スタッフ、院長含めて管理者としての町長、そして病院を今事業を担当している私という理事者の関係が、それは本当に信頼関係で成り立っているかというところ、こういう病院の今の方向性を出すためのさまざまな議論をしている段階ですから、先ほども言ったように、やはり皆さん今後の自分の将来含めて進退をどうするかというところでは考え方の違いもあるだろうと認識しています。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） 私も何回も町立病院に調査に行っているわけでもありませんが、見舞いや何かで行きます。がらがらですよ。私はちょうど4日前に行ったら入院患者は17人しかおりませんでした。このようなことでは、もっと後々、後々というよりも今だ。この入院患者の減少は収入減に、収入の確保に大きな影響が私はあると思います。そして、病院と行政の信頼関係が私は崩壊してしまうのではないかなど、こうも思っております。これを私は恐れております。そのときに病院が私は民営化でなくなるのではなく、病院そのものがなくなるのではないかなど、こう思っているのです。きのう大淵議員のほうから医業収支のお話がありました。この医業収支は、町長が病院を原則廃止すると、まずこういう考えを申されました。しかし、それからいろいろあって、繰出金の縮減、これを1年以内に1億円余り縮減すれば改めて見直すよと、こういう話で、猪原院長にげたを預けて、猪原先生は約6カ月か7カ月で約8,900万円を確保したわけです。それから、そのときに町長は継続のときやっぱり白老には一般病床のある今のような形の病院が必要なのだ、だから継続する、こういう話だったですよ。私は、今心配しているのは25年の繰出金が4億4,302万9,000円です。真水分2億5,278万6,000円、今の繰出金の縮減になった27年が真水9,213万9,000円です。しかしながら、29年度、町長が今の政策判断で診療所にする、この影響があって、私は29年の医業収益は幾らですか。

○議長（山本浩平君） 野宮病院事務長。

○病院事務長（野宮淳史君） 29年度の決算見込みになりますけれども、医業損失につきましては3億2,662万円くらいの、前年度ベースやはり3,335万円くらいの損失増となっております。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） たった1年で、この27年度決算から努力して、この結果になった真水が9,000万円が今言っている3,300万円、ことし見込みふえるのです。またふえる。その次はまたふえる。病院経営は成り立たないと言っているのは、私はこのことを言っているのです。ですから、やはり早い判断が必要だというのは、私町長、このこと言っているのですが、

その見解どうですか。

○議長（山本浩平君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） 有識者を含めた25年のときのあり方については、原則廃止ということで出しました。そのときには、本当に、今議員がおっしゃるとおり、繰り出しが4億4,000万円以上の金が出ていたということで、原則廃止と申し上げたのは、財政をいかにやっぱり守り切るか、財政再建をしなければならないということでの一つの判断でありました。その後、今もご指摘があったように、改善計画を病院内部の中で立てまして、猪原院長を先頭にしながら改善を図りながら、これまで真水も含め、交付税も含めて2億7,000万円ぐらいの繰り出しでやってきております。そういう中で今回の政策判断のところは財政的なところは1つありながらも、もっと将来的な、国が出されている医療の制度のあり方を踏まえながら、ではうちの病院、地域医療の形をどうするべきか、そういう中での一つの判断でございます。そういう中で今ご指摘のあったことが影響を及ぼして、病院の収支が悪化してきていると。それは、全てが今回の政策判断の影響ではないとはいいたいところですが、決してそうではないだろうと私たちも押さえております。確かにそういう今回出されたことが本町の町立病院に対するいろんな見方につながって、将来的なことも含めてつながっているのではないかとということもあります。そういうところも踏まえながら、議会からいただいたご意見もしっかりと真摯に受けとめまして、どういう形が本当にいいのか、そのところは私たちも今精査を図りながら町民の皆様方に、そして議会の皆様方にしっかりとご理解をいただける基本構想の改定版、そして基本計画の素案を出していかなければならないと思っています。ですから、今回も本来当初の計画でいえば基本設計の予算をと思っておりましたけれども、決してそういう状況ではないだろうと、しっかりといま一度立ちどまって、やっぱり考えていかなければ、この問題は非常に大きな問題だということで今押さえております。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） 12番です。代表、一般質問等でもアイヌ民族の復興、アイヌ文化を生かした産業化とか、アイヌ民族共生象徴空間とか国内唯一無二の多文化のまちづくりを進められている。象徴空間に絡めた周辺整備事業が24億6,276万7,000円、100万人の受け入れ環境、観光の整備を最優先と位置づけ、こういうことには総力を挙げて取り組む。そして、町長はどこに行っても白老はいいなど、こう言われると、言われておりました。そして、答弁の中でうれしい悲鳴を上げているように私は聞こえたのです。一方、1万7,300人、この人口の間もなく半数が高齢化になります。最も必要な、最も白老のまちづくりに汗をかいたこの方々が今こそ病院が必要というときに、白老町立健康保険病院は町長の生命をかけて病院がなくなると。この政治判断は、正当な判断だと私は胸を張って言えないと思うのです。胸を張って町長、この町民にきちっと説明をして、理解をさせて、そしてそれでの町民

の一番いい方法はこうなのだ、このことで私はまだ進める気なのか。これ最後にしますから、もう一度考え方を、考え方というかな、この町立病院の進め方だ。進め方でない。今進めていることにまだまだ前向きに没頭して進むのかどうか、私はそれをもう一度お聞きしておきたいと思います。私は、一度立ちどまって、振り返ってほしい。これを願って、もう一度町長の声を聞きたいです。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 松田議員が私から聞きたい答えは重々わかっているのですが、中間報告にもありましたとおり今苦小牧保健センターと一緒にあって、もう具体的に診療科についたり、いろんな医療行為というのですか、医療形態についてまだお示しすることができないので、この辺はきちんと中間報告に沿って慎重に進めていきたいというふうに思いますので、それもまた議論を重ねていきたいというふうに思います。

それと、象徴空間との件なのですが、象徴空間はやはり町にとっての千載一遇のチャンスと捉えて、これは進めさせていただきます。ただ、病院のほう私全面的に廃止すると言っていることでもなく、新しい病院づくりのために今どういう形が将来にとっていいのかという思いで進めております。無床の診療所にしてもおおよそ15億円は病院で建設費がかかると試算しておりますので、その辺は全然お金をかけないということではなく、きちんとお金もかけていきたいという思いはありますので、またその辺は具体的なものが出来たら議論させていただきたいというふうに思います。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

[12番 松田謙吾君登壇]

○12番（松田謙吾君） 町長、一口で15億円、しかも苦小牧保健センターのためにです。それだったら、今のある病院を少し改良して、ここから苦小牧保健センターにやってもらったらどうですか、もしやるのなら。私反対です。でも、どうしてもやるのだったら、新しい病院なんかつくることはないです。町民は反対すると思います。私は、言うなれば診療所というのは100人か、130人の予定していますよね。以前右田病院がありました。あれ個人病院です。診療所です。あれ1億円かからないでつくっているのだ。あれが診療所だ。診療所の姿。15億円もかけて診療所やるのだったら、やめたほうがいい。そういう町長の考えは、私は通らないと思います。なぜ、何が通らない。そんなことではこの次の選挙に通らないのだ。私は言っているでしょう、前回も言った。白老のこの象徴空間、戸田町長が一生懸命やった、まだ若い、あと2年したらあそこができて上がる、そのとき戸田町長が胸を張ってテープカットをしてやるようなまちの政策が、これはもう一度立ち直って、町民の思う病院をちゃんとつくってやることだ、それが後々戸田町長のたたえられることなのだ、私は何度言っていますか。どうしてそこに15億円で100人も来ない診療所をつくるのですか。私は、そういうことにはならないと思います。私は、旗上げて反対します、もう一回。

○議長（山本浩平君） 古侯副町長。

○副町長（古俣博之君） 町長最後にご答弁というふうなことで、今金額的なところと、それから象徴空間との関連含めてお話がありましたけれども、これまでもこの議会が始まってからも常々お話ししておりますように象徴空間と町立病院というか、地域医療をつくり出すということの土俵の違いはしっかりと私たちも押さえております。だから、そのところは押さえながら、今どういようなつくり方をすべきかということで、診療所もという名前が今ありますけれども、その診療所の中のあり方がどうあればいいのか。医者が1人で、看護師が2人で、それでいいのか。いろいろ内容的なことも含めて考えていったときの一つの過程として15億円というふうなことで町長がおっしゃったことですので、その辺のところの議論はまたさまざまあるだろうと思っておりますけれども、そういうところで押さえてほしいと思っております。

全体的なことで申し上げますと、やはり先ほどから町長もどうい判断をすべきかということは議員のほうから、それから今までの特別委員会の議論を通しながらしっかりとそれはしなければならぬと、私も町長の思いを酌んで、そう思っておりますし、そういう形の中で町民の、あくまでもやはりずっと言っているようにこの命を守る、健康を守る、そして安全を守っていくための一つの白老町としての病院、地域の医療づくりを進めていくということは絶対守っていかなければならぬと考えております。

○議長（山本浩平君） それでは、ここで暫時休憩をいたします。

休憩 午後 0時30分

---

再開 午後 1時27分

○議長（山本浩平君） それでは、休憩を閉じて会議を再開いたします。

一般質問を続行いたします。

12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） それでは、2項目めの質問をいたします。

象徴空間の整備について。

- (1)、象徴空間周辺整備にかかわる総事業費と財源内訳について。
- (2)、土地売却総額と財源用途について。
- (3)、白老駅周辺整備事業と財源内訳について。
- (4)、駅北観光ゾーン基地整備と財源内訳、運営方法について。
- (5)、まちづくり会社設立主体と明確な説明責任について。
- (6)、まちづくり会社のあるべき姿について伺います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 象徴空間周辺整備についてのご質問であります。1項目めの象徴空

間周辺整備に係る総事業費と財源内訳、期間についてであります。民族共生象徴空間が開設される2020年度までを期間として、総事業費見込み額は約24億6,000万円であり、財源の内訳として補助金、交付金が約8億円、起債約6億7,000万円、国へ土地を売却した収入を含む一般財源が約9億9,000万円であります。

2項目めの土地売却総額と財源用途についてであります。国に対して土地を売却した収入及びポロト地区温泉施設整備事業用地として売却する収入の総額は約7億円であり、その財源は白老駅周辺整備事業を初めとする象徴空間周辺整備事業に充当することとしております。

3項目めの白老駅周辺整備事業費と財源内訳についてであります。白老駅周辺整備事業として、老朽化した人道跨線橋のかけかえの実施など約13億2,000万円の事業費を見込んでおり、その財源内訳は国からの交付金約5億2,000万円、起債約3億9,000万円、一般財源約4億1,000万円であります。

4項目めの駅北観光ゾーン基盤整備事業費と財源内訳、運営方針についてであります。本年2月14日開催の議会調査特別委員会でご説明した（仮称）地域文化・観光研修センター整備に係る事業費4億1,060万円における財源内訳は、国交付金1億8,437万円、地方債1億8,430万円、一般財源4,193万円と試算しております。運営方針につきましては、現在町で検討しているまちづくり会社が指定管理を受け、運営することと想定しております。

5項目めのまちづくり会社設立の主体と明確な責任についてであります。今後会社設立に賛同する発起人による準備委員会を立ち上げ、町が事務局機能を担い、金融機関及び旅行会社等とともに設立準備を進めていく考えであります。明確な責任については、町は出資者として出資額に応じた範囲において責任を負うべきであります。その設立に関与する立場から健全な会社経営に向けた取り組みと自立化を支援しながら適切な指導、監督等の関与を行うものと認識しております。

6項目めのまちづくり会社のあるべき姿についてであります。まちづくり会社は、本町の行政需要が多様化する中で収益事業と非収益事業のバランスをとりながら本町が抱える課題を解決し、新たなまちづくりを推進する組織団体であります。また、設立目的は多文化共生社会の実現に寄与すること、地域をマネジメントし、経済活性化を実現すること及び持続、発展のための人材育成の3つの柱を掲げております。この目的を達成するための事業を展開する中で、町民や事業者等と連携を図り、多文化共生のまちづくりに貢献するとともに、地域経済循環を高め、未来創生を目指す考えであります。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） ただいまご説明、答弁いただきましたが、象徴空間周辺整備については1点、2点、3点、あわせて簡単に質問いたしたいと思います。

象徴空間の周辺整備、私は大きく言うと今苫小牧から社台へ向かっているあれも地域周

辺整備だと思います。そういうことからいくと、同僚議員もいろいろ質問されておりましたが、私はこの周辺整備、まさに社台から虎杖浜まで、整備の手法もいろいろあると思うのですが、いずれにしてもこの周辺整備事業に24億6,000万円という大変大きな事業投資ができることは白老、この近年にない大型事業だし、それなりの効果も見込まれての投資だと思います。駅周辺だけでも約13億円で、金額とかなんとかよりも、私はある程度はかけなければならないものだと思うし、ただこの周辺整備も今言ったように大きく言うと社台から虎杖浜までの地域が、この周辺整備事業もそうですし、象徴空間にかかわった恩恵が町民にどのようにあるかによって、町民の関心が私はそこにあるような気しているのだ。我々も町民とよく話しすると、象徴空間できてよかったね、だけれども私らにどんなよいことがあるのというのが町民の思いですし、それから高齢者の方々はそんなことお構いなしに、私余り関心が無いと思っています。ですから、今後この周辺整備は外国含めて100万人も来るわけですから、私はその方々がいいまちだねというのは象徴空間ばかりでなく、町内にあるさまざまな道路も含めて、それから家並みもそうですし、町並みもそう。そういうところにやはりもう少しこれからは気配りすべきだなと思いますし、何といたっても大町の中央通、ここにやっぱり象徴空間来て、これが象徴空間できた大町の振興策だというものを1つ考えてやるべきだし、この駅北ばかりでなく、本町の役場も老朽化の状況になってきたから、役場ももちろん建てかえなければならぬし、それも含めて、よそから来た観光の方々も駅裏よりもやっぱり本町に私は興味があると思います。ですから、本町をどのようにやっぱりこれから振興策を考えていくのかは、本町の町民のためにも一言聞かせていただきたいと思っています。

○議長（山本浩平君） 岩城副町長。

○副町長（岩城達己君） 象徴空間含めてまち全体の町並み形成等々のご質問でございます。まず最初に、町民皆さんが恩恵と申しまししょうか、本当に象徴空間がここ白老にあってよかったなど、そういうことを思い、実感できることがやっぱり大事かなど。そのためには、町民の方々にやっぱり関心を持ってもらうということも必要かなというふうに思っています。ご質問にありました駅北だけで終わるのではなくて、線路をまたいで、やっぱり大町、振興会に足を運んでもらうと。そういう中では、若い人たちが今いろいろ工夫しながらイベント等取り入れた大町商店街の活性化策という部分を打ち出して、1周年記念事業打ったり、空き店舗を改装してのお店を駅すぐ前にも出したり、ケーキ屋さんができ、それからお肉を食べれるお店もできという部分があります。地方から来るお客様が魅力あるものでなければならぬと思います。あそこに行くとこんなものがあるよ、こんなものが食べれるよというものがなくなかなか足は向かないと思います。そういう部分では、今大町商業振興会のほうでまた新たな提案を今計画中というお話は伺っています。まだ具体的なことではないのですが、これ自分たちでやっていくのだということで、町に補助金をどうこうではなくて、やっぱりみずから汗をかいてやっていきたいと、こういうご相談もありますので、町としてできるだけことは相談に乗っていききたいというふうに考えておりますし、そうい

うことができるとまた大町のほうにも人が流れてくるのではないかなというふうに考えております。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） 今までこの10年間、それこそ財政再建のためにない袖を振れないということで、町民サービス含めて随分町民は我慢をしてきた。私は100万人来るとさまざまなまちを立ち寄ると思うのだけれども、例えばインクラの滝とか、それからポロトの奥の森の休養林。あの休養林整備もそれこそもう少し金をかけるとすばらしい休養林になると思うのです。私は、よそのまちから来る観光客はああいうところのほうが見せ場ではないかな。倶多楽湖もそうですし、そういうところに少し力を入れ、この象徴空間を含めてやっていくべきだなと思うし、それからまちじゅう道路はパッチだらけ。それから、町の管理地も草も随分生えます。やっぱりそういうところに気配りするところが私はきれいなまち、白老に結びついていくのではないかなと思うので、1年何億円の話でなく、何百万円から1,000万円、2,000万円の話ですから、そういうまちづくりの転換も、考え方も私は象徴空間周辺整備事業の一環だと思うのです。ですから、そういうところから少し力を入れて、投資をしていったらいいのではないかなと思うのですが、どうですか。

○議長（山本浩平君） 岩城副町長。

○副町長（岩城達己君） 確かに松田議員おっしゃるとおり、スポット的に象徴空間のみならず、やっぱり大きな視点で全町にかかわる部分の取り組みは必要ではないかと。幾つかお話あった中でもポロトの自然休養林、国有林ということもあって、現在林野庁のほうにまちお金がないので、何とか林野庁のメニューの中で展開できることがないかということのご相談を申し上げ、北海道森林管理局のほうも現地も見に来ていただいて、こういう手だてでできる、できない部分の協議は進めておりますので、そういった点でのご質問にあったようなポロト自然休養林も全体の中ではお客様が足を運んでもらう、とても大事で、また大変いいところですので、そういう展開も図っていきたいと思ってございます。道路も含めて気配りが大事ということですので、できることからやっていきたいと考えております。

○議長（山本浩平君） 12番、松田謙吾議員。

〔12番 松田謙吾君登壇〕

○12番（松田謙吾君） 次の駅北観光ゾーン基盤整備なのですが、これは先般取り下げたわけですから、ここに私はこだわって質問するつもりはありませんが、私は大事なのはまちづくり会社にしても会社なんてあしたにでもできると思うのです。ただ、つくる気になれば。だけれども、結果的には今までのいろいろなまちの姿や、それからそういうものを見てくると、みんな二の足を踏んで、金を出すか。会社なんて今1円から株式会社できるわけですから、なのだけれども、やはり前回の駅北整備4億1,000万円の中で1億9,500万円売り上げたら1億6,700万円減価に係るよ、ああいう仕方では納得できるものではないと私は思いま

す。もう一つは、こちらに100万人来る、来ると言っていて、あの駅北に50万で15万来て、1,300円掛けたら1億9,500万と。こんな計算では私は納得できないと思っていました。もう一回町民の声も議会の声も聞くということでもありますから、予算としてコンクリートになる前に相談して、そしてまちづくり会社に携わっていく人方が、あの人方が集まって、どんな駅北にするか、そのところが私は大事だと思っているのです。ですから、今回取り下げた、改めて検証して、そしてしっかりしたものをつくって出すということですから、私は質問はこのぐらいにしますが、そのところだけで1つお聞きして、終わります。

○議長（山本浩平君） 岩城副町長。

○副町長（岩城達己君） 駅北周辺の駅北ゾーンの整備、そしてまちづくり会社に関するご質問であります。想定される収支という内容でお示ししたわけですが、なかなかそれ決してイコールということにはなりませんので、いま一度そこは今後の準備会等を立ち上げた中でかかわる方々で、今お話あったとおりに、本当に夜なべ談義するぐらいの気持ちで真剣に内容を詰めていかなければならないというふうに感じております。特に今回の駅北の研修センターについては、そういった反省点を踏まえてしっかりつくり込んで、議会のほうにも提示していきたいと考えてございます。

○議長（山本浩平君） 以上で12番、松田謙吾議員の一般質問を終了いたしました。